

平成27年度 邑南町教育委員会点検・評価報告書

平成28年9月
邑南町教育委員会

目 次

はじめに	・・・	1
1 教育委員会の開催実績	・・・	1
2 教育委員の諸活動	・・・	4
3 教育委員の研修等	・・・	5
4 教育委員会だより	・・・	5
5 教育委員会の所見	・・・	5
6 第三者評価機関委員からの意見骨子	・・・	8
7 平成27年度邑南町教育委員会点検・評価表	・・・	11

(P1～P29)

資料 教育委員会点検・評価と公表についての自己評価の考え方

平成27年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たしていくために、教育方針を基に、自己評価での点検及び評価を行い、学識経験者の意見を踏まえて議会へ報告するものです。

1 教育委員会の開催実績

① 定例（毎月開催）の教育委員会…12回

② 臨時の教育委員会…3回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月14日	1. 専決処分の承認について（指定学校の変更について）
5月26日	1. 邑南町奨学金条例の一部改正について 2. 邑南町社会教育委員の委嘱について 3. 邑南町子ども読書活動推進会議委員の委嘱について 4. 専決処分の承認を求めることについて (主任発令について)
6月23日	1. 専決処分の承認を求めることについて (スポーツ推進委員の委嘱について) 2. 邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助実施要綱の変更 について

	3. 邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について
7月29日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町奨学基金償還免除について 2. 平成28年度中学校教科書採択について 3. 邑南町地区民プール条例廃止の諮問について 4. 邑南町教育支援委員会の答申について 5. 邑南町教育施策の実施計画について 6. 邑南町奨学基金条例の一部改正について 7. 指定学校の変更について
8月11日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町教育委員会の点検、評価及び公表に係る第三者評価機関委員の委嘱について 2. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価について
8月17日	1. 指定学校の変更について
8月25日	1. 邑南町奨学基金条例施行規則の一部改正について
9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 1. スクールバス条例施行規則の一部改正について 2. 準要保護児童生徒の就学援助の追加受給認定について 3. 専決処分の承認を求めることについて (指定学校変更について) 4. 区域外就学について
10月23日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町教育支援委員会の答申について 2. 指定学校の変更について 3. 準要保護児童生徒の就学援助の追加受給認定について
11月9日	1. 石見東小学校改築事業の今後の方針について
11月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教育委員長の選挙について 2. 教育委員長の職務代理者の指定について

	3. 次世代育成支援特定事業主行動変更計画について
12月24日	1. 色覚検査について
1月22日	1. 指定学校の変更について 2. 区域外就学について
2月16日	1. 邑南町小中学校における障がいを理由とする差別の解消の推進に関する対応要領（案）について 2. 邑南町教育支援委員会の答申について 3. 邑南町立小・中学校の教職員の服務規則の一部改正について 4. 教職員の人事について 5. 邑南町教育委員会の点検、評価及び公表実施要綱の一部を改正する訓令
3月23日	1. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 2. 邑南町スクールバス施行規則の一部を改正する規則について 3. 邑南町郷土館活動推進協議会員の委嘱について 4. 社会教育主事の任命について 5. 久喜・大林銀山遺跡調査指導員の委嘱について 6. 邑南町教育委員会事務組織規則の一部を改正する規則について

2 教育委員の諸活動

- ① 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ② 町、教育委員会行事への出席（成人式など）
- ③ その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	内 容
4月 2日	教職員着任式
9日	小中学校入学式
4月21日	第1回総合教育会議（公民館のあり方について）矢上交流センター
5月18日 ～3日間	学校訪問（5/18 石見東小、矢上小、石見中、日貫小） （5/20 瑞穂中、瑞穂小、市木小） （6/ 1 口羽小、阿須那小、羽須美中、高原小）
5月29日	第2回総合教育会議（家庭教育のあり方について）本庁会議室
10月21日	第3回総合教育会議 （学校における児童・生徒の学習支援等について）本庁会議室
10月23日	教育民生常任委員会との意見交換会 本庁会議室
11月 9日	第4回総合教育会議（新年度 教育委員会主要事業と予算について）本庁会議室
11月12日	学校医との情報交換会 いこいの村会議室
平成28年 1月3日	成人式
3月15日	中学校卒業式
18日	小学校卒業式
25日	教職員退任式

3 教育委員の研修等

開催日	研修内容
7月 9日	島根県 市町村教育委員会連合会研修 松江市
7月23日	中国地区教育委員連合会研修（～24日） 倉敷市
8月17日	浜田地区教育委員会懇話会 大田市

4 教育委員会だより

平成27年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議等の活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事等を紹介しました。

5 教育委員会の所見

今年、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、平成27年4月1日から新教育委員会制度が始まり、関係条例や規則改正を議会に提案しました。新たに求められた総合教育会議は町長より4回招集があり、関係者を招き充実した会議となりました。また、毎年、新たなテーマのもと研鑽の機会を図り、視察研修等を行ない、今後の邑南町の教育の一助にしていきたいと考えています。

学校の現場の状況に関しては、学校訪問の実施により、11校の学校の抱える問題、課題の把握を行ない、懸案事項については、教育委員会として協議するなどし、体制の充実に努めるとともに新年度予算へ反映するよう努めてきました。

（1）学校教育の取組

- ① 「邑南町いじめ防止基本方針」に基づき策定した「邑南町いじめ問題対策連絡協議会等条例」により、第1回目となる「邑南町いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、学校や教育委員会、役場関係課と警察、児相、法務局などの関係機関で、町内でのいじめの現状といじめ問題に対する関係機関での連携について

確認しました。

町内の子どもたち、小学校6年生（複式校は5年生も参加）、中学校2年生が一堂に集い「つながろう仲間！ なくそういじめ おおなん子どものつどい2015」を開催し、参加した子どもたちが、思考を広げ、深める質問のしかたや相づちの打ち方など人と人とが楽しくコミュニケーションをするうえで大切なことを実践をとおして学びました。平成27年度において、いじめ問題の発生報告は少ないものの、学校と連携し、どんな軽微ないじめ問題でも早い時期に把握して、速やかな対応をしていくよう努めています。

② 子どもたちの学ぶ楽しさや基礎学力の定着を支援するために、

- ・「花まるさんすう教室」（小1～6年生 毎月1回 3地域）
- ・「漢字カルタ大会」（小1～4年生 7月 田所公民館）
- ・「辞書引き学習会」（小1・2年生 9月 3地域）
- ・「中3夏の学習会」（中3年生 8月 出羽公民館）
- ・「英語・数学向上セミナー」（中3年生 11～12月 3中学校）
- ・「中3冬の学習会」（中3年生 12月 矢上高校）
- ・「調べ学習相談会」（小1～中3年生 7月 3地域）
- ・「調べる学習作品展」（小1～中3年生 9月・2月 元気館）
- ・「中学生学習支援実証実験事業（東大ネット）」（中3年生 各中学校）

などの支援事業を開催しました。

（2）生涯学習の取組

- ① 6月のガイダンスから始まり、11月の作品発表上映会まで実行委員会を立ち上げ、ほぼ1年かけて地域総がかりで「しまね映画塾 in 邑南」に取り組みました。出雲市出身の錦織良成監督を塾長とした合宿型のワークショップでは社会人、学生、主婦、お年寄り、子どもなどキャリアも年齢も違う見知らぬ他

人同士がチームを組み、1つの作品を作り上げる事の達成感は計り知れないものがありました。今回のこの映画づくりの取組が、今後の公民館活動や地域づくりに活かすものとなりました。

② 文化財につきましては、久喜床屋製錬遺跡の3か年にわたる調査で、久喜・大林銀山における鉱石の採掘から製錬までの一連の流れが見えてきました。郷土館において銀山遺跡速報展を開催しました。林道開設工事に伴い上田所の青松遺跡（中近世の炭窯跡×6基）の発掘調査を行いました。自然館ではオープン15周年記念イベントを開催しました。繁殖技術の確立に向け、人工飼育下における2世個体のオオサンショウウオの3年連続の繁殖に成功しました。

③ 3年目となる地域学校の取組ではふるさとの「ひと・もの・こと」をたっぷり体験できる環境を作ることで、私たちの将来の隣人となる地域の子どもたちに、「世界へも羽ばたける力」を地域総がかりで育成することを目的に実施しています。各地域内でふるさとの素材を使い、いろいろと特色のある活動を進めており、今後とも、さらなる充実を目指し、地域の皆様と一緒に取り組み、将来をつないでいきたいと思えます。

以上のように、子どもたちの生きる力を育む教育の振興、郷土を愛する心による地域文化の保存・伝承・創造、生涯学習や活動の支援により心豊かに学ぶことのできる町を目指して各事業を進めてまいりました。

6. 第3者評価機関委員からの意見骨子

I 学校教育 [学校教育課]

1) 点検・評価 P6 事務事業名「⑤就学環境の充実」について

家庭支援の必要な世帯が増えてきている。学校と教育委員会が一緒になって支援に向けて関係機関との連携に取り組んでほしい。

II 社会教育行政 [生涯学習課]

2) 点検・評価 P11 事務事業名「②家庭教育」について

島根県の親学プログラムの研修で他の町の学校の取組発表があつて、非常に有意義なものであると感じた。教育委員会だけに任せるのではなく、一緒に取り組んでいきたい。

3) 点検・評価 P16 事務事業名「②健康・福祉に関する学習」について

冬場にノルディックウォーキングについて取組みをしているが、是非ノルディックスキーの研修にも取り組んでほしい。

4) 点検・評価 P20 事務事業名「①図書館の整備・充実」、P29 事務事業名「④読書の普及」について

就学前の子どもへの関わりをつくる取組みとして読書普及を行っていただきたい。

5) 点検・評価 P23 事務事業名「②ふるさと歴史・文化に関する学習」について

ふるさとの歴史・文化に関する取組みを学校で授業時間を使って取り組んでいる学校があるが、それぞれで地域差はあると思うが、町内すべての学校で授業時間を使って取り組むこととならないか。

6) 点検・評価 P24 事務事業名「③芸術・文化に関する学習」について

カルチャーバスを2回計画し、実施評価しているが、これは廃止し、一度見直ししてはどうだろうか。

■全体評価（点検・評価全体を通じて）

- ・平成27年度の事業実績で「継続」や「改善して継続」として表示されているが、平成28年度は引き続き新しいことに取組み、さらに事業が増えているのではないかと。どこかの時点で見直しも必要ではないか。
- ・点検・評価は議会に提出して、町民の皆さんに公表することとなっているものなので、もっとわかりやすいものや見やすいものにしてほしい。

平成28年8月18日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員	長谷川 久 雄	委員	高 瀬 満 晃
委員	三 上 源 子	委員	鳥 居 清 枝
委員	品 川 隆 博	委員	日 高 歳 彦
委員	日 高 亘	委員	青 山 嘉 子
委員	井 上 直 樹	委員	日 高 久 志

7. 平成27年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり

平成27年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

I 学校教育 [学校教育課]

施策1 「力のある学校づくり」への支援

～つながり合い、学び合い、高め合う教室・学校づくり～

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取り組みに努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>転入教職員人権・同和教育研修は、転入してきたすべての教職員が参加している一方、小中学校職員研修会は毎年希望制としているため、30名程度の参加人数にとどまっている。翌日の「町人権・同和教育啓発推進講座」と同じ講師で開催しているため、どうしても平日の午後に開催せざる得ないことが要因である。 今後も継続して開催し、できるだけ町内すべての教職員が参加できるようにしたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○人権講座 町教育委員会で教職員対象の研修会を実施した。また、各学校でも年間計画を立てて研修を実施している。 ・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会 4回 延べ59名 ・邑南町教職員対象研修会 2回 延べ58名 (転入教職員同和教育研修会 28名参加・小中学校職員研修会 30名参加)</p>			9

事務事業名	②実践的な学習の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。 研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりのモデル校、英語指導力向上セミナーの町教育研究会英語部会が主体的に取り組んでいたことに加え、今年度は数学的な考え方セミナーで研修したことに学校全体で取り組み、児童の学習意欲や学力調査結果の向上につなげた学校もあった。</p>		8	改善し 継続
課 題			
<p>教師力向上のための研修会は、4年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めるなど、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い授業づくり モデル校4校（高原小、瑞穂小、市木小、羽須美中）各3回開催 モデル校以外の7校 各1回開催 ・学び合い授業づくり研修会 1回開催（11名参加） ・説明文の授業づくり、調べ学習セミナー 各1回開催（計32名参加） ・数学的な考え方セミナー 2回開催（計19名参加） ・英語指導力向上セミナー 3回開催（計25名参加） ・ふるさと講座、おおなん郷土塾 各1回開催（計40名参加） ・郷土文化財資料活用プログラムの開発（資料編集15日間従事） 		8	

事務事業名	③確かな学力を育む		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>①基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業では、参加した子どもは楽しく学ぶことができた。花まるさんすう教室では年度末のアンケートから、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった」と回答していた。調べ学習相談会に参加した子どもは、邑南町調べる学習作品展に内容の濃い作品を出品していた。辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が多く見られ、その後各学校で継続して辞書引きに取り組む子どもがほとんどであった。全体として、学習意欲の向上は達成することができたと考える。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査の町全体の小学校6年生の平均正答率は、平成19年度から少しずつ向上していたが、平成27年度は国語・算数とも下がった。中学校3年生の平均正答率は、平成19年度から年によって波があり、平成27年度は国語は全国平均を上回り、数学は下回る結果となった。</p> <p>②読書の推進では、学校司書が定期的に連絡会を開催することで情報共有ができ、お互いの業務効率の向上につながった。また、他の研修会に参加することで新しい考え方を取り入れることができた。</p> <p>③笑顔キラキラサポート事業では、学校からの要望にほぼ対応できた。</p>		8.5	改善し 継続

課 題	
<p>①基礎学力の向上・定着では、希望者を集めての学習会には、学習に支援が必要な子どもが必ずしも参加できているわけではない。学校や家庭とも、より連携していく必要がある。</p> <p>学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組みがされている。教育委員会として、各学校の効果的な取組みを町全体へ説明する必要がある。</p> <p>②読書の推進では、今後の活動の参考にするため、貸出しの多い分類や学校司書の活動等に関するデータが求められる。</p> <p>③笑顔キラキラサポート事業では、各支援員が効果的な支援ができるよう研修を充実させ、支援員の資質向上をはかる必要がある。</p>	
主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○基礎学力の向上・定着</p> <p>基礎学力向上・定着を図るために、算数・数学や英語、家庭学習に重点を置いた事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花まるさんすう教室 3地域で7回ずつ実施、学習プリント配信システムを活用 ・中3夏の学習会 3校の中学3年生全員参加 ・調べ学習相談会 小学1年～中学3年生対象 各3地域1回ずつ開催 ・調べる学習作品展 年2回開催 ・漢字カルタ大会 小学1年～4年生対象 年1回 ・「101漢字カルタ」映像ソフト制作～おおなんケーブルテレビ放映している。 ・辞書引き学習会 小学1・2年生対象 3地域1回ずつ開催 	9
<p>○読書の推進</p> <p>・学校図書館機能の充実を図るために、町独自での学校司書研修を実施。また、定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについて情報共有を行った。</p> <p>・学校司書の配置(平成21年度から全11校に1名学校司書を配置)</p> <p>・県の「子ども読書活動推進事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。</p> <p>・研修会で学んだ手法を取り入れることができた。</p> <p>・学校図書館等を活用した調べる学習作品展の実施 前期46点、後期268点の申込みがあった。</p>	9
<p>○笑顔キラキラサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年複式学級支援員1名(市木小学校)を配置した。 ・生活支援員を小学校4校に5人配置した。 ・学習支援員を小学校7校に8人、中学校2校に3人配置した。 	9

<p>○学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国及び島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。年度途中で各学校に聞き取りを行った結果、学校の実態、分析を踏まえて取組みが行われている。 ・全国学力・学習状況調査(対象:小学6年生、教科:国語・算数 /対象:中学3年生、教科:国語・数学) ・島根県学力調査(対象:小学3年生から6年生、教科:学年によって違うが、国語・算数・社会・理科 /対象:中学校全学年、教科:学年によって違うが、国語・数学・社会・理科・英語) 	9
<p>○外国語指導助手招致(小学校) ALT配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化への関心を高め、英語と親しむことを目的に配置した。 ・外国語指導助手(ALT)の知識を広げるため中学校の授業を数回視察した。 ・小学校 1名(2年目) 8校/週1回授業 	8
<p>○外国語指導助手招致(中学校) ALT配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な英会話能力の向上を図るために配置した。 ・外国語指導助手(ALT)の知識を広げるため小学校の授業を数回視察した。 ・中学校 1名(2年目) 3校/週1~2回授業 	9
<p>○教材・設備の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施 ・予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存している。 	7

事務事業名	④特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し、相談件数も増えてきている。</p> <p>通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。</p> <p>教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。</p> <p>いじめ対応支援事業のQUアンケートでは、各学校で学級づくり、関係づくりに活用されている。</p> <p>「おおなん子どものつどい」では、小規模校の子どもたちにとって意義のある活動となった。また、小学生が中学生から中学校生活の様子を直接聞くことができ、進学に向けての不安解消と期待感につながっている。</p> <p>教育支援委員会では、保育所・園及び学校からの要望に応え、年3回委員会を開催し、幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申した。</p>	8.8		改善し 継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>特別支援相談ネットワークを活用し、支援の必要な子どもを対象に相談支援ファイルすこやかを手渡しているが、その後の活用が不十分なため活用について周知が必要である。</p> <p>通級指導教室は、各小中学校と情報交換、連携を深め、継続した支援を実施する。</p> <p>教育支援センターでは、中学校卒業後の支援について困難であるため出身中学校や進学先の高校、地域と連携を図っていく。</p> <p>QUアンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう教育委員会主催でのQUアンケート活用の研修会を実施し、各学校でのQUに対する認識を深め、全校での取組みとなる体制の整備が必要である。</p> <p>「おおなん子どものつどい」では、各学校での生徒会活動や児童会活動につながっていくように、今後学校との連携を深める必要がある。</p> <p>SSWによる支援を必要とする児童生徒が増加しており、これまでと同じようにきめ細かく支援を行っていかねばならない。</p> <p>教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう周知をする。また、学校においては児童生徒数の規模にかかわらず、保護者との連携を図り、町教育支援委員会への迅速な対応を心がけていく意思統一が必要と考える。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○特別支援相談ネットワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町特別支援合同相談会の定期開催を計13回、別で2回開催した。 相談件数:23件 (相談内容により検査や保護者との面談も実施した。) ・特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回相談を各保育所・園(町内9箇所)を7月後半から8月中に実施した。 ・2月に特別支援連携協議会を開催し、その後研修会を開催し、60名の参加があった。 	8
<p>○教育支援委員会</p> <p>教育支援委員会の審議会を3回開催した(審議対象者12名)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度審議対象者10名の就学後の検証。 ・平成27年度審議対象者12名の実態把握(保育所・園、小学校訪問) ・平成27年度審議対象者12名の就学支援についての保護者面談を個別に実施。 	10
<p>○通級指導教室</p> <p>担当職員 瑞穂小:3名 瑞穂中:1名が配置されている。</p> <p>平成27年度新規通級利用者:小学校8名(総数20名)、中学校6名(総数12名)</p>	9
<p>○教育支援センター(たけのこ学級)</p> <p>利用者:13名(単発の相談含む) 延べ利用人数:632人 学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回 相談支援チームとの情報交換会:1回実施 県立石見養護学校と支援の相談等連携を図った。 たけのこ学級だより発行:3回(町内小中学校全保護者対象)</p>	9
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>スクールソーシャルワーカーを1名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期に各小中学校を巡回訪問 ・個別に家庭訪問も実施 ・ケース会にも参加し、関係機関と連携を図り問題解決に取り組んだ。 ・平成27年度の支援対象の児童生徒は小学校8名、中学校3名、高校1名。訪問回数は学校や家庭など含め106回。 	8
<p>○いじめ対応支援事業</p> <p>町内小中学校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。</p> <p>町内の中学2年生と小学6年生(複式の学校は5年生を含む)を対象に「なくそういじめ つながろう仲間 おおなん子どものつどい」と題したワークショップを外部講師を招いて開催した。</p> <p>学校や教育委員会、役場関係課と警察、児相、法務局などの関係機関で構成する「邑南町いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、町内でのいじめの現状といじめ問題に対する関係機関での連携について確認した。</p>	9

事務事業名	⑤就学環境の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。</p>		9.5	改善し 継続
課 題			
<p>スクールバス車両の老朽化により故障が多発しているため、計画的に順次更新をしていく必要がある。 就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小学校での健診を案内したため、転居先の校区の小学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スクールバス運営 ・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線(雪田線、宇都井線、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、日貫山の内線)を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ・土日等の学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。</p>		9	
<p>○就学援助費の給付 ・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者:小学生90名 中学生54名 支給額:小学生5,926千円 中学生5,440千円 ・特別支援就学奨励費の支給 該当者:小学生3名 中学生3名 支給額:小学生110千円 中学生139千円</p>		10	
<p>○通学助成費の給付 ・通学費助成 該当者:小学生16名 中学生5名 支給額:小学生288千円 中学生124千円</p>		10	
<p>○就学時健康診断 ・就学時健診:小学校8校を会場に11月に実施 対象者71名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、面接</p>		9	

I 学校教育 [学校教育課]

施策2 「地域に開かれ、地域と結ぶ学校づくり」への支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	①地域を担う意識の育成		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>各学校で実施形態、内容等は違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。</p> <p>医療講話は、町教育委員会主催で公立邑智病院事務長に羽須美中と石見中を1回ずつ回ってもらい実施した。</p> <p>農業後継者育成プログラム作成に向け、今年度はまず実態把握として、全小中学生及び保護者を対象にアンケート調査を実施した。100%に近い回収率であった。アンケートの集計・分析は島根大学生物資源学部准教授に協力していただき、年度内に終えることができた。</p>		8	改善し継続
課 題			
<p>校長会や事業説明会等でキャリア学習の実施について依頼や説明をしているが、より浸透を図るため、教頭会でも説明・質疑を行ったり、必要によっては担当者会を開いたりして、町主催の農林業講話と学校の年間計画をしっかりとすり合わせていくことが大切と考える。</p> <p>この取り組みにより、一層地域を担う生徒の意識の育成が期待できる。</p> <p>農に関するアンケートについては、今年度中に集計・分析結果を保護者に伝えることができなかった。来年度は、集計・分析に協力いただいた島根大学の准教授を招いて、保護者及び学校、地域住民へ伝えるシンポジウムを開催する予定にしている。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○キャリア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林業体験 中学1・2年生を対象にいずれかを1回実施 ・医療講話 中学3年生を対象に研修 2校で1回実施(羽須美中、石見中) 			8

事務事業名	②地域との共同学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>おおなんドリーム学びのつどいに向け、中学校の中には独自に保護者、地域の人に向けて提言発表会を開いている学校がある。また、つどいで提言発表したことを実際の行動に移している学校、さらには地域に働きかけた活動について提言発表するも出てきている。続けていくことで、各学校の主体性が昨年度以上に生まれてきている。</p>		10	継続
課 題			
<p>おおなんドリーム学びのつどいは日曜日開催であるため、発表者以外の町内の小中学生の参加が全員とはならないのが現状である。今年度は、1つの中学校が当日を日曜参観日として全校で参加してもらえた。より子どもたちのふるさとへの愛着や地域への貢献意欲を高めるためには、全員参加が効果的だと考えるが、現実には難しい状況である。ケーブルテレビの放送に加え、録画したDVDの学校への配布などの方法も今後考えていきたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において、割り当てられた予算の範囲内で地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施された。 			10
<p>○夢響き合い塾(おおなんドリーム学びのつどい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は1月31日に開催できた。参加校は、小学校4校、中学校3校、高校1校、特別支援学校1校、一般1組が集い、互いに町への提言を発表した。どの学校も1年間取り組んだ地域とのつながりを生かした体験活動をもとに、邑南町への思いや願いを堂々とプレゼンしていた。 			10
<p>○学校関係者評価</p> <p>町内小中学校11校とも学校関係者評価委員を選任し、年3回以上会議や参観の日を設定し、自己評価の結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告があった。結果は、保護者等への公表にも努めた。</p>			10

I 学校教育 [学校教育課]

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	①学校施設の整備		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ・起債事業等を活用し、学校施設の環境改善に努めた。 ・石見東小学校の改修工事は、屋内運動場の床を改修し、継ぎはぎだらけの床が解消した。 ・瑞穂小学校の改修工事は、シロアリにより腐食した床の改修工事で、防除対策も含め完了した。 ・羽須美中学校の電気系統改修工事は、電圧が不安定で停電が多発していた地下ケーブルを抜き取り、改修した。 ・小学校の遊具整備については、予定していた遊具の修繕、塗装を行い、使用不可になっていた遊具の利用が可能になった。 		9	改善し継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>各学校とも老朽化が著しく、緊急性を要する修繕工事が突発することが多く、応急的な修繕を繰り返しているのが現状である。 児童生徒の快適な学習環境を創出するため、大規模改修が必要な学校も多く、今後も中長期的な学校整備計画を進めていく必要があると考える。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見東小学校改修工事(屋内運動場床改修工事)完了 ・瑞穂小学校改修工事(理科室床改修工事)完了 ・羽須美中学校電気系統改修工事完了 ・小学校遊具整備工事完了 			9

事務事業名	②児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。その中で、通学路の安全対策を実施するために、前年度に設立した道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用した。</p>		9	改善し継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>・通学路安全推進部会において、通学路の危険個所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図る必要がある。</p> <p>・子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事している。近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっている。継続隊員の防犯パトロール講習会への参加の呼びかけを行いつつ、広報活動等により新規隊員の加入促進を図っていく必要がある。</p> <p>・児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○防犯、安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、CAP(子どもへの暴力防止)研修、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。 	9
<p>○邑南町子ども安全センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 8月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動等)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 従事者数:126名 登録車両台数113台(内公用車3台) 	9
<p>○学校保健安全衛生対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診等を実施した。 環境保健公社委託健診(心電図等)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診 公社委託健診の実施日に欠席した児童生徒については、公立邑智病院において心電図検査のみを後日実施した。 平成26年度の学校保健安全施行規則の一部改正に伴う平成28年度からの児童生徒の健康診断の変更について養護教諭や学校医と連携して対応することができた。 学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭等と連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。 	9

事務事業名	③その他		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、年間を通して滞りなく事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。</p>		8.6	改善し継続
課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。 ・新たに学校へのクラウド版サイボウズを導入したが、どのように今後運用していくか再検討する必要がある。 ・邑南町奨学金返還に係る滞納者について適切に対応していかなければならない。 ・教職員住宅では、今後、必要な住宅戸数、地域を検討し、計画的な教職員住宅の管理・運営に努める必要がある。 			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校事務共同実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に寄与するため、学校事務部門の充実、強化の推進を図った。 ・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで事務の効率化を探った。 ・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。 ・事務支援システムとして、教職員が自席でメールのやり取りができるように新たなツールとしてクラウド版サイボウズを導入した。 		9	
<p>○邑南町奨学金貸与事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等、高等専門学校、専修学校、大学校または大学等に在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 ・平成27年度末時点貸与者8名(うち新規貸与者3名) ・平成27年度末時点償還対象者30名 ・平成27年度末時点据置期間または償還猶予対象者4名 		9	
<p>○教職員住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。(羽須美地域6戸、瑞穂地域13戸、石見地域15戸) ・修繕が必要な個所は随時修繕を行った。 		8	

Ⅱ 社会教育 [生涯学習課]

施策1 「社会教育」

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	①地域学校		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>「将来の隣人」である子どもたちに、ふるさとを学校にした地域のフィールドにおいて、「地域の宝を体験する」、「地域の人を体験する」活動について具体的な動きが見えてきた。</p>		7.5	改善し継続
課 題			
<p>全公民館区の立ち上げに向けて取り組んできた。今年度について、立ち上がったのは4カ所である。 引き続き、説明会及び研修会等実施し、来年度、全地域完全実施に向け努力する。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○研修会の開催 ・予定していた2回の研修会が実施できず1回のみとなった。 ・香川大学清國先生を迎え、実施団体については事例発表、今後立ち上げる地域については、事例を聞いての研修会を実施した。「小さい損を受け、大きな徳を得る」気持ちが必要である。まさに当事者意識の醸成が急務であると確信できる研修会であった。</p>			5
<p>○地域学校の開設 ・未実施8カ所を全地域立ち上げを目指したが、4カ所にとどまった。</p>			5
<p>○地域学校開設に向けた説明会の実施 ・公民館等との連携により、各地区併せて11回の説明の機会を得た。</p>			10
<p>○おおなンドリーム学びのつどいの開催 ・小中学校、県立学校及び地域からの提言をいただく。 ・また、その提言の具現化のための動き、具体的には、町内史跡の看板設置、イベント開催、邑南野菜実現に向けての検討会等、提言者自らが責任を持つての行動を確認した。</p>			10

事務事業名	②家庭教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>子育て関係団体を含め社協、各地域プロジェクト等との有機的な連携のもと、地域総がかりで子育てを行うという土壌づくりを意識した取り組みとなった。 また、子育てに関する各種団体の多様な価値観を結集し、「将来の隣人」である子どもたちに真摯に向き合える体制が構築できたのではないかと考える。</p>			

課 題	9.2	改善し 継続
島根県が推奨する「親学プログラム」及び「親学プログラム2」の実施について、特に小中学校及び保育所・園の周知を含め、実施の目的の理解までには至らなかった。 各小中学校のPTA研修会等の場を活用し、保護者同士の連携、強化に努めていく等周知方法の検討が必要である。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○家庭教育の支援 ・「親学プログラム」、「親学プログラム2」を活用し、各学校PTA研修会、各保育所保護者会研修会を4回開催し、家庭教育に関する学習機会を提供した。		7
○子育て講演会の開催 ・子育て支援ネットワーク協議会を通して、特に保育所・園と連携し、就学前保護者対象に現状に即した学習機会を提供した。		10
○子育てに関するネットワークの構築 ・子育てに関する各種団体及び関係機関の有機的な連携を図り、それぞれの立場での価値観の基、「地域総がかり」を念頭に置いた、地域との一体感を持った取り組みを行った。その成果として、わくわくフェスタ2015の実施となった。		10
○思春期子育て講座の開催 ・「性・命・人権教育講演会」を中学生対象に保健課、学校と連携し実施した。保護者にこの講演会への参加を呼びかけ、共に命の大切さを学んだ。		10

事務事業名	③青少年教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
地域素材（ひと、もの、こと）を生かした体験活動を実施してきた。ふるさとを知り、誇りに思い、大好きな地域の将来を見据え、自身がどのように将来地域に貢献できるかというストーリー性のある取り組みができた。		10	継続
課 題			
地域の思い、願いをどのように子どもたちに伝え、そして残していくのかというシステムの構築について、地域の教科書という明確なものは残せなかった。今後、地域の図書館としての「匠」から後世に残していけるプログラム等の開発が求められる。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○放課後子ども教室(放課後子ども総合プラン) ・公民館、児童クラブとの連携のもと、地域ボランティアの協力を得て体験活動を中心に12回開催した。			10
○プレーパーク事業(地域学校) ・各公民館において、地域素材を生かした体験活動を中心に、週末及び長期休業中に実施した。			10
○土曜学習の実施 ・家庭を含めたニーズと本町が提供できる講師との内容が合わず、今年度については実施を見送った。			—

事務事業名		④成人教育	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>社会の要請であるいろいろな地域課題について、本町の将来を見据えた学習機会の提供に努めた。</p> <p>また、成人の方を対象とした町内県立学校開放講座を4講座開設した。</p> <p>矢上高等学校では、漢文の楽しさについて、石見養護学校では、木工および陶芸教室を実施した。</p>		5	改善し継続
課 題			
<p>地方創生について、特に地域課題の解決に向けた学習機会の場の設定が急務である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○邑南町民大学の開催</p> <p>・各地域の課題について、公民館と連携し、その課題に対する解決策等の方向性を学習という場を通して、共に学び合う機会を3回設けた。</p>			5

事務事業名		⑤ボランティア活動の機会の充実	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校支援からのボランティア育成、そして組織作りなど特にボランティアの育成及び養成について、学校支援を中心とした「応援団」の設置に努めた。</p>		7	改善し継続
課 題			
<p>ボランティアの高齢化が進んでいる。今後は、保育所、小中学校及び高校を核とした人材の育成及び養成に努めていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○ボランティアの活動支援</p> <p>・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行った。</p>			7
<p>○人材バンクの整備</p> <p>・公民館を拠点に活動している各種団体等からの支援、学校支援ボランティアの情報等共有し、必要に応じて地域活動を支援した。</p>			7

事務事業名		⑥学習支援者の確保と育成	
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>要求課題での学びから、各地域等必要課題の解決に向けた総合的な研修会等の実施により、その多様性に応えた。</p>		9.5	改善し継続
課 題			
<p>学びからのネットワークについて確実に広がったという結果には繋がらなかった。</p> <p>それぞれの団体の情報等を共有しながら、指導者の質の向上を含めた研修の場を提供していく必要がある。</p>			

主な事業内容と実施状況		実績評価
○少年団体育成指導者の育成 ・学校支援ボランティア研修、町民大学等の研修に併せて実施した。		9
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事が広島大学での社会教育主事研修(1ヶ月)に参加し、資質向上に努めた。		10

事務事業名	⑦団体・グループの育成、支援		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
研修会等の充実は図ってきた。 子ども会育成会の支援について、保険加入促進は例年どおり実施した。 但し、保険加入促進のみの支援となっているため、各団体の要求について、調査する必要がある。		8.5	改善し継続
課 題			
特に、子ども会育成会について、地域学校の受け皿、ふるさと学習の推進団体として子ども会育成会の目的に応じた多様な活動パターンを検討し、地域での子育てに関する実働的な役割を果たすべく団体として強化する必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○社会教育関係団体等の育成支援 ・社会教育関係団体等のニーズに応じた研修会の開催や学習機会についての情報提供、各種イベントでの交流の推進を図った。		8	
○子ども会育成会の支援 ・子ども会育成会のニーズに応じた研修会の開催や学習機会についての情報提供、各種イベントでの交流促進を図った。		9	

事務事業名	⑧学習情報の提供		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だより等、紙媒体での情報提供は充実したものとなった。		8	改善し継続
課 題			
ホームページの更新について、その実施に向けての取組みができなかった。 電子媒体での情報公開の有意性を確実に理解するため、その専門的知識を養成する研修を行う必要がある。			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○広報・啓発活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・ケーブルテレビ等や公民館まつり等のイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域における情報が全町に伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。 	8
<p>○情報提供資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。 	8

Ⅱ 社会教育 [生涯学習課]

施策2 「学び」と「ひと」を結ぶ公民館事業

～ふるさとを知り、人をつなげる公民館～

事務事業名	①公民館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
地域課題の発見からその解決へ向かって住民の学びや交流を支援する場であることが再確認できた。		9	改善し継続
課 題			
地域創生や地域再生プロジェクトなど地域づくりの様々な事業において公民館の立ち位置を明確にし、人と人を繋いでいく役割を果たす必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○公民館活動の推進 ・各地域の住民の要求と課題を把握し、公民館活動推進協議会を中心に活動計画の策定を行い、各種学級・講座等の学習活動の推進に努めた。		9	
○地域づくりへの支援 ・地域創生地区別戦略プランの策定にあたり学習機会の提供や情報の共有を行った。 ・地区別戦略プランは11地区公民館エリアで提出された。		9	
○生涯学習情報の提供 ・公民館行事や様々な情報をケーブルテレビ、公民館だより等で定期的に情報提供を行った。公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに公民館紹介コーナーを設けた。公民館の行事や情報はケーブルテレビを活用して発信した。地域力醸成プログラム事業「伝えたいこの子らにわれらみちばた学芸員」を2つの公民館で番組制作し放送した。ケーブルテレビの「ハツミミ」コーナーで各公民館をリレー方式で2公民館紹介した。 ・町民大学や講演会等の内容に合う図書の展示に努めた。		9	

事務事業名	②健康・福祉に関する学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
子どもから高齢者まで気軽に楽しめる運動を中心とした環境設定を行い、生涯にわたって健康づくりに取り組めるよう学習機会の充実を図った。		9	改善し継続
課 題			
公民館が様々な教室やサークルづくりを支援し、長く続くように各教室やサークルのリーダーの育成を行う。			

主な事業内容と実施状況	実績評価
○健康増進事業の推進 ・健康づくりを目的に保健課と連携して、公民館単位で毎月ウォーキングを開催した。経年推移をみると参加者が少しずつ減っている。それは日常的なウォーキング者が増えているからという報告もある。毎回平均40名前後の参加があった。	9
○元気高齢者の育成 ・福祉課と連携し高齢者の生きがいづくり事業としてカルチャーバスなど計画し、引きこもり防止を目的に実施した。65歳未満延べ参加者720名、65歳以上延べ参加者1,210名、合計1,930名であった。延べ回数は78回であった。	9

事務事業名	③多様な分野の学習機会の提供		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
多様な分野の学習機会にそれぞれの公民館の地域性や文化を活かした学習を行うことができた。また、12の公民館が連携して協議会として学習機会に取り組んだ成果も大きい。年々公民館の必要性が大きくなり、地域づくりの拠点としてますます重要なものになってきている。		8.8	改善し継続
課 題			
今までにあるものに違ったものを加えて新たな価値を見出す、PDCAサイクルを基本として多様な分野の学習機会に対応していく。また、法律や町条例等を熟知して公民館運営に携わる必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○男女共同参画の推進 ・石見一步の会やスキップの会と連携して、事業を展開したり団体の支援活動を行った。 ・町民課と連携して学習会の提供を行った。		8	
○平和教育の推進 ・28回目を迎えた公連協主催「歩こう広島まで」の参加者は68名であった。幅広い年代の参加者が、身をもって学ぶ平和教育に取り組む事ができた。 ・平和学習会として被爆体験証言者による講話を聴いた。(1回)		10	
○人権教育の推進 ・公民館で行う学級・講座や様々な活動を通じて人権教育を推進した。特に各公民館で年1回以上開催するよう計画し実施した。開催回数は16回、延べ参加者数は416名であった。公民館主事も段階に応じて基礎講座や専門講座を学び、最終的には中核指導者研修まで一貫して学習した。		9	
○環境教育の推進 ・自然観察会を2館合同または3館合同で開催した。合同で行うことで経費も安くなり参加者も増えた。		8	
○しまね映画塾(文化振興)の推進 ・昨年度から取り組んだ「しまね映画塾」の集大成として2泊3日の合宿型に取り組んだ。錦織良成監督の指導の元、参加者200名で地域資源を題材として9本の映画を完成させた。地域資源のお宝の再発見と全国から参加された参加者の交流など、大きな成果を得た。EXILEのAKIRAをゲストに迎えた9作品の作品発表会には、1000名の来場者があった。		10	
○高齢者学級の開催 ・運動教室や認知症予防教室の要望を受けて学習支援や情報の提供を行った。		9	

○成人学級の開催 ・個々の能力開発が推進されるよう、成人学級を開催しその成果を公民館まつりで発表した。		8	
○現代的課題講座 ・防災学習会を自治会と一緒に開催した。		8	
○ふるさと教育の推進 ・ふるさと講座のテーマ「邑南町の生き物」 講演会や現地観察会を行い、全5講開催した 第1講：ゲンジボタル学習会（講演会・現地観察会） 参加者45名 第2講：ブッポウソウ観察会（現地観察会・講演会） 参加者51名 第3講：ハッチョウトンボ観察会（講演会・現地観察会） 参加者27名 第4講：野鳥学習会（講演会） 参加者45名 第5講：ヒキガエル観察会（講演会・現地観察会） 参加者22名 計190名		9	
○地域力醸成プログラム推進事業 ・地域のお宝を語り継ぐふるさと学芸員を養成した。公民館活動やふるさと教育の講師役として活躍している。公民館単位でお宝を活かし子どもを巻き込んだ映画作りを行った、（日貫公民館、高原公民館）		9	
○高校生を対象とした講座の開催 ・高校卒業生を対象に「18歳のためのはばたき講座」を実施した。（場所：矢上高校） ・テーマは若年層のメンタルヘルス対策とブラック企業対策、防災学習であった。 ・2日間で160名の生徒が参加した。		9	
○日和子ども塾 ・学校の建物がなくなっても子どもたちが地域とのつながりをしっかりとって、成長していくよう日和公民館が中心となって、カルチャーバスや特別天然記念物「オオサンショウウオ」を学んだ。また、NECレッドロケッツバレーボールチームと一緒に郷土料理を作ったりVプレミアリーグの試合観戦をしたりして、夢を抱く子育ての推進を図った。		9	
○館々交流の推進 ・公民館合同で通学合宿を行った。 ・石見地域小学校交流事業→井原公民館でけん玉教室へ ・邑南サマーボランティアリーダー研修(1泊2日)地域のお宝を使って映画を作ろう。(蜘蛛伝説) 場所：井原公民館 参加者23名		9	
事務事業名	④学習成果発表の場の充実		
総合点検・評価		総合評価	
公民館活動の成果発表の場として、各公民館で公民館まつりが盛大に開催された。公民館単位での地域の力が結集されている。 毎年テーマを決め、公民館活動推進委員や社会教育委員からの意見や思いを取り入れた集会を行う事ができた。一年間公民館が特に力を入れた事業の報告として各館のパネル展を行った。どこの公民館が何に力を入れているか確認することができた。		8.6	
課 題			継続、 廃止等
楽しい実りある邑南町公民館研究集会を開催することが求められている。			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○公民館まつり・文化展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、公民館まつり・文化展を開催した。 ・公民館まつり・文化展の開催(各1回) 	9
<p>○教室・サークルの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の要望にあった教室・サークルを紹介・支援した ・公民館だより等でPR、サークル紹介を行った。 	8
<p>○公民館研究交流集会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各公民館活動推進委員と社会教育委員で参集し、邑南町公民館研究集会を開催した。「公民館における体験活動の素晴らしさ」について学ぶ。(1回) 	9

事務事業名	⑤相談窓口	総合評価	継続、廃止等
総合点検・評価		9	改善し継続
<p>ふるさと講座や歩こう広島までなど邑南町公民館連絡協議会という広域での取組みは、多くの参加者に対応できた。邑智郡公民館連絡協議会では3町のうち邑南町がリーダーとなって郡の協議会を盛り上げた。町公民館連絡協議会も郡公民館連絡協議会も年々参加者が増えてきている。また、それに対応できる力も研修等重ね備わってきている。</p>			
課題			
<p>地域創生地域戦略プランをはじめ地域づくり等の学習の手伝いとして、相談業務の情報の提供やその支援をどのように行うか見極める力が必要となる。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○相談窓口の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。 ・各種情報提供や相談に応じた。 		9	
<p>○広域での連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回邑智郡公民館連絡協議会で3町合同の研究集会を行った。他町村の公民館主事と交流し情報交換した。「公民館の役割と機能」について研修した。参加者41名 		9	

II 社会教育 [生涯学習課]
 施策3 図書館

事務事業名	①図書館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<p>「第2次呂南町子ども読書活動推進計画」に基づき、各機関が課題解決に向けた活動を実施することができた。新規購入、相互貸借を活用し図書館利用者の要望に応えることができた。成人への読書啓発は公民館等の協力によりすすめることができた。 蔵書構成の見直しに着手しているが、今後も継続する必要がある。</p>		9.5	改善し 継続
課 題			
<p>蔵書構成の見直しを検討するとともに、今後も成人への読書啓発活動の推進も積極的に行う必要があると考える。また、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書のあり方について、さらに力をいれて普及させる必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○新規図書の購入 ・資料の充実。学校図書館バックアップ。新規購入 児童書 1,231冊、一般書 905冊</p>			10
<p>○県立図書館特別貸出の活用 ・利用者ニーズに応えることに努めた。 ・借受冊数 3,000冊</p>			10
<p>○読書普及活動の推進 ・子どもが自らの課題を見つけ、考え、解決する力を養うため、学校司書と連携し、「呂南町おすすめ本」のリストを作成し、児童生徒に活用してもらうよう配布した。 ・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、中学校からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。 ・呂南町子ども読書推進会議を1回開催し、「第2次呂南町子ども読書活動推進計画」の進捗状況を確認し、今後の計画について話し合いをした。 ・平成26年度から公民館と連携し、講演会等に関連書籍を展示し、成人への読書啓発を行った。(12回) ・個人貸出 38,849冊、団体 9,791冊 目標値に達した。 ・ブックスタート 0歳児 74人、1歳6カ月児 65人、3歳児 71人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。 ・子どもたちへ読書の関心を高めるために、三館めぐり、ぬいぐるみのお泊り会、夜のおはなし会を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。</p>			8
<p>○20歳のブックスタート事業 ・推薦図書の選定及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。対象者数 113名</p>			10

Ⅱ 社会教育 [生涯学習課]

施策4 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	①人権・同和教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
町全体としての取り組みは、実施目標回数等達成することができた。また、平成26年度から取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催できた。学社連携啓発プログラム教材の作成については2作を並行して作成したことにより年度内に完成しなかったが9割がた出来上がった。		8.4	改善し継続
課 題			
講演会への参加者の固定化がみられるので、作成した学社連携啓発プログラム教材を活用し、小グループ、保護者会等への啓発が必要と考える。 また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことが必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○職員の研修 ・職員研修を7月と12月に実施し、また、県・各種団体の実施する各種研修会(30回 159名)にも参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携して働きかける。		8	
○各種団体への啓発 ・町及び公民館の主催する研修会・学習会を職場研修としたことで参加職員の増につながった。また、邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。14団体+役場+公民館 18名			
○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携 ・年2回以上の研修会を開催した。また各種研修会へ参加した。研修会はケーブルテレビの長尺番組で放送された。しかし参加者の固定化がみられる。		9	
○進路保障学社連絡協議会の開催 ・人権・同和教育と進路保障の推進状況、支援等の必要な児童生徒についての情報交換等を行った。石見、瑞穂、羽須美地域～学期に1回開催した。		9	
○公民館人権教育プログラムの立案 ・プログラムについては、学社連携啓発プログラム教材1号「部落史の出会い直し～江戸時代まで」を使用して研修会を開催した公民館が4館計画3館実施。計画及び準備、打合せはしていたが都合で開催できなかった公民館はあるものの、ほとんどの公民館で研修会を開催できた。11館で計17回開催、442名の参加。		8	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策5 文化行政

～郷土の文化や文化財を大切にし、

愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	①関係施設の整備・充実と有効活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>ハンザケ自然館について、入館者数・入館料ともに大幅に増えた。町内の学校の利用校数も増加し、ふるさと教育の拠点として活用されたといえる。また、オオサンショウウオの観察会を含めた生息調査や館内飼育展示、とりわけ人工繁殖のノウハウの蓄積の面で大きな成果を出している。また、地域と連携した学習や保護活動にも力を入れており、充実した事業展開をみせている。</p> <p>郷土館については、久喜・大林銀山遺跡をテーマとした企画展を開催することができた。ふるさと学習の拠点として一定の役割を果たすことができたが、常設展示の充実やさらなる企画展示の開催など改善が必要である。</p>		8.5	改善し 継続
課 題			
<p>郷土館、ハンザケ自然館ともに地域住民の生涯学習や小中学校におけるふるさと教育の拠点としての役割を担っており、特に、町内全ての小中学校にふるさと教育で施設を利用してもらえるよう工夫が必要である。特に前年度に比べ利用校数が減少した郷土館について学校へのPRが必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土館の見学対応や出土遺物等の整理は随時行った。 ・郷土館活動推進協議会を2回開催した。 ・活動推進協議会委員や久喜・大林銀山保全委員会、さらに当銀山について学習中の中学校等の協力を得て、久喜・大林銀山遺跡速報展を開催した。しまねミュージアム協議会研修会を郷土館や自然館を会場に開催した。 ・入館者数は1,263人で前年度比732人増であったが、町内の学校の利用校数は6校から4校に減った。 			8
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然館オープン15周年記念イベント ・環境学習事業×2回(稚アユ放流・ヒキガエル観察会) ・自然観察・自然体験事業×5回 (魚釣り教室×2回/カブトムシ・クワガタムシ観察会×2回/ハッチョウトンボの観察会) ・ハンザケふれあい事業×9回 (オオサンショウウオの身体測定会・オオサンショウウオの観察会×8回) ・自然保護活動事業×10回 (カスミサンショウウオ/コウヤミズキ/ヒキガエル×4回/モリアオガエル/植物/ハッチョウトンボ/コウモリ/湿地の保全調査など町内各地で実施した。) ・人工飼育事業・人工繁殖事業 人工飼育下におけるオオサンショウウオの産卵・孵化、2世個体での3年連続繁殖成功は、昨年に続き国内初の事例となった(繁殖技術の確立を目指す事業) ・講演・研究発表等×3回(東京/奈良/広島) ・研修生・視察の受け入れ (専門学校研修生×2回/ドイツ:ベルリン動物園/アメリカ:サンタバーバラ動物園・ミスティック水族館など) ・入館者数は7,939人で前年度比896人増、入館料は189,250円増と大幅に増えた。 また、町内の学校の利用校数も前年度より2校増え9校となった。 			9

事務事業名	②ふるさとの歴史・文化に関する学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>森林基幹道三坂小林線計画地内に所在する青松遺跡（上田所）について、発掘調査対象の遺構（中近世の炭窯跡×6基）の現地調査を完了することができた。</p> <p>久喜・大林銀山遺跡調査事業について、久喜 床屋製錬遺跡の調査を完了し、江戸時代前期に銀を含む鉱石の製錬を行った遺跡であることが判明した。</p> <p>開発者側との文化財取扱協議について、おおむね遅滞なく協議、対応できた。</p> <p>伝統芸能の保存伝承の推進について、具体的な事業の推進はできなかった。</p>	6	改善し継続	
課 題			
<p>久喜・大林銀山遺跡調査研究事業の他、各種開発事業に伴う埋蔵文化財の調査が複数にわたっており、計画的な発掘調査員の養成と発掘調査の実施をしていかなければならない。</p> <p>伝統芸能の保存、継承の推進については、より具体的な事業の推進が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○文化財の保護・保存・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林基幹道三坂小林線計画に伴い上田所に所在する青松遺跡の発掘調査(古式の炭窯跡×6基)を行った。また、放射性炭素年代測定調査を実施した結果、中近世の炭窯群と判明した。 ・町文化財保護審議会を1回開催した。 ・旧山崎家住宅台所改修工事を行った。また、旧山崎家住宅を会場に石見国巡回講座県事業を開催した。 ・第3・4回 久喜・大林銀山遺跡調査指導委員会を開催し、委員及び同席の県教育庁文化財課職員から指導を受けた。その他別途、考古学及び地質・鉱床学の調査指導会を開催した。 ・平成25年度から継続の久喜 床屋製錬遺跡の必要最小限の発掘調査を完了し、発掘した遺構について保護保存のため埋戻しを行った。焼竈跡(製錬の前に鉱石を加熱、酸化および硫黄分を除去して焼鉱にした遺構)×100基以上。鉛の吹床跡(焼鉱を製錬して銀を含んだ鉛を抽出した遺構)×1基。灰吹床跡(含銀鉛を製錬して銀を分離した遺構)あるいは、灰吹で生じたろかすを鉛に戻す吹床跡(灰吹で生じた酸化鉛を鉛に戻す製錬を行った遺構)×1基などを確認する成果を出し、当銀山の江戸時代における鉱石の採掘から製錬への流れがわかってきた。 ・久喜 床屋製錬遺跡の調査報告会及び現地説明会を開催した。 ・久喜 床屋製錬遺跡で発掘した遺構の三次元測量を実施し詳細に記録。さらに、放射性炭素年代測定調査を行い遺跡の年代を検討した。 ・久喜製錬所跡の調査として、近代堀家史料文献調査を実施した。また、当銀山遺跡の動植物調査を実施した。 ・県事業 石見銀山連続講座(田所公民館/久喜・大林鉱山・都茂鉱山・銅ヶ丸鉱山) ・県事業 鉱山研究会(大田市/石見銀山・佐渡金銀山・多田銀銅山・久喜・大林銀山) ・各種開発事業に伴う埋蔵文化財取扱協議については、携帯電話基地局や真砂土採取道路改良工事など約15件行った。 		9	
<p>○文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」等で対応した。 出前講座は4回、受講者総数は96人で前年度対比約80%あった。 			6
<p>○伝統芸能の保存伝承の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事「次の日祭(傘鉾)」に参加する羽須美中生徒に対しての事前学習会を行った。 ・町内の伝統芸能団体の把握や情報交換、記録保存等について、これといった取組みができなかった。 		3	

事務事業名	③芸術・文化に関する学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、 廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 邑南の自然・景観写真展について自然館とほたるの館で開催したが、来場者1,888名の来場者もあり、邑南町の豊かな自然環境について啓発することができた。 ・ カルチャーバスについて、目標の2回を達成できたが参加者が固定化しており、事業の在り方が本来の趣旨から外れているため、検討が必要である。 		7	改善し 継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 邑南の自然・景観写真展を複数館で行うことでより多くの地域住民に、邑南町の自然の大切さを啓発する必要がある。 ・ カルチャーバスについて、参加者が固定化しており、また、交通環境の充実によりこの事業継続の見直しが必要である。若年層に対するプログラムが必要である。 			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○芸術・文化活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然館及びほたるの館において、「邑南の自然・景観写真展」を開催した。 ・ カルチャーバスは、劇団四季「美女と野獣」(参加者42人)及び国際高校生フォーラム(倉吉市、約40人)を行った。 		7	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策6 社会体育

～スポーツを通じた心身の健康づくりと

明るく豊かなライフスタイルの形成～

事務事業名	①生涯スポーツ活動		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学んだ事を地域に還元していくというスタイルはすっかり定着し、軽スポーツを中心に邑南町スポーツ推進委員の地域での活躍が目立っていた。また、職員も軽スポーツを出前講座等を通じて地域に広めた。邑南町体育協会も様々な大会等の運営に携わり、生涯スポーツの要として心身の健康づくりやスポーツの普及に寄与した。官民協働型としていい形で推進活動ができています。</p>		9	改善し継続
課題			
<p>地域スポーツクラブは自立しているので、育成等の関わりを検討する必要がある。NECバレー合宿と教室の在り方を参加者のヒアリング等をもっと成果を残すべきである。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○スポーツの普及拡大 ・スポーツ推進委員が研修で学んだことを地域の中で公民館とも連携して進めていった。誰でも手軽に参加できるレクリエーション祭りの開催(温泉卓球、カローリング)</p>		9	
<p>○生涯スポーツの支援 ・体育協会、スポーツ推進委員及び既存のスポーツ団体と連携をし、各種大会や交流会を実施し、町民の交流、一体感の醸成に努めた。 ・各団体と協力し、大会、交流会を実施 ・関係団体主催の行事に積極的に参加協力(邑南町バレーボール大会、親善ソフトバレー大会、邑南町長杯野球大会、邑南町長杯ファミリーバドミントン大会、邑南町グラウンドゴルフ大会など)</p>		9	
<p>○スポーツにふれあう機会の提供 ・出前講座等で軽スポーツの紹介及び啓発を行った。 (出前講座 12回 参加者数 323名)</p>		10	
<p>○スポーツ教室の開催 ・夢授業「島根スサノオマジック」教室などのスポーツ教室を開催した。(小学校5校 90名) ・NECバレー教室は2会場にて昨年に引き続き子どもから大人まで参加した。(132名)</p>		9	
<p>○総合型地域スポーツクラブの育成・支援 ・地域スポーツクラブスタッフに軽スポーツ「ラダーゲッター」を紹介した。</p>		8	

II 社会教育 [生涯学習課]

施策7 地域づくりの推進

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	①出前講座		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
各課で事前に必要課題について検討し、年度のメニューを決定した。そのメニューにより受講希望の団体の希望に沿った講座等開設できた。		10	継続
課 題			
この講座をきっかけに、自主的に活動を起こしていくなどの動きが確認できなかった。(あくまで要求課題に対しての取組) 今後、出前講座を受講後の各団体の自立に向けた動きの検証等、方法を含め検討していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、町職員が地域に出向いて講座を実施し、118講座2,738人の参加を得た。			10

事務事業名	②住民自治による地域づくりの推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
地方創生に関して、地区別戦略の基礎となるものとして、特に実施地域においては、本推進計画を移行若しくは修正し活用した。		10	継続
課 題			
本町が進める地域づくりに関しての施策等、多岐にわたるため、住民自治の視点からの情報提供を工夫すべきだと感じた。特に、小集団地域での固有な課題解決に向けた取組みについて、確実な情報提供に努めなければいけない。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○夢づくりプラン策定のための支援 ・地域の総合振興計画策定を意識した地域課題解決のための手法等のための学習の場の提供を行った。			10
○夢づくりプラン推進のための支援 ・地域の総合振興計画の実施に向けた取組みの必要性について、総合的に研修会を実施し、その必要性を提唱した。			10

事務事業名	③食育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
食育推進委員会を開催し、それぞれの行動計画等確認した。			

課 題	10	継続
食育推進委員会自体が実働部隊ではないため、確実に各部会の状況を図る必要がある。併せて、各部会の活動を明文化し、講評していく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○食育の推進 ・食育推進計画の具現化ため、特に各課及び関係機関との有機的な連携を図ることに努めた。食育推進委員会で食育推進計画の見直しの為のワークショップを実施した。併せて、子育てフェスタで町産材を使った箸づくりのワークショップを実施した。親子での参加、高校を卒業する生徒の参加を頂いた。		10

事務事業名	④健康センターの活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
平成27年度健康センター元気館の利用者数は36,194人と前年度と比較して1.7%減となった。 イベント、会議の利用は増加したが、アリーナの利用は減少した。		8	改善し継続
課 題			
パラリンピックキャンプ地誘致に向けての啓発、施設の充実等を図る必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○健康センターの活用推進 ・NECレッドロケッツ合宿誘致、映画塾等スポーツ・文化分野での事業を実施した。			8

Ⅲ 学社連携教育 [学校教育課／生涯学習課]
施策1 学校・社会教育の連携の推進

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	学習プログラムを学校、公民館等から計6人のスタッフで計7回の検討会議を行い2作並行して作成。完成には至らなかったが9割がた出来上がった。啓発については4館計画3館開催した。	8	改善し継続
	課題 各団体に続けて学習できるよう作成中の2作を完成し、次作のプログラム教材についても検討会議を重ねながら作成していく。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○人権・同和教育研修 学校人権・同和教育の学習プログラムを学校と公民館とで共同で2作並行して作成。完成には至らなかったが9割がた出来上がった。また、地域への啓発に向けて公民館主事及び同和教育主任に説明及び啓発のお願いをした。プログラムでの啓発は4館計画3館実施した。		8

事務事業名	②ふるさと学習		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	子どもと大人が、地域への思いを共有する学習機会や発表する場を設け、ふるさとについて学び見つめなおす機会となった。	8	改善し継続
	課題 学校・地域が相互理解の上に連携し、それぞれの役割を果たしながら進めていく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○ふるさと学び合い講座 ・ふるさと教育担当者会を3地域毎に開き、ふるさと教育の進め方についての話し合いを行った。(各地域1回) ・各校で児童生徒が地域の方たちと共に学び、教わったことを「おおなんドリーム学びのつどい」で発表した。		8

事務事業名	③食育の推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	学校給食の提供、地産地消の推進は継続して取り組んでいる事業である。「食育」の推進として、地産地消を取り入れた安心安全な学校給食の提供を心がけ取り組んだ。	8.3	改善し継続
	課題 地産地消の推進を図る上では野菜の高騰、消費税の問題など天候や社会情勢により臨機応変な学校給食事業の提供が求められる。これらの状況を予想しながら今後も食育の推進を図る必要がある。		

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○学校給食センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か所ある給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ・安全安心な給食の提供を心がけ、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。 	9
<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き給食センターに地産地消コーディネーターを配置し、地元食材の調達などの業務を専門的に取り組んだ。また、地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 ・今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するよう地産地消コーディネーターを中心に栄養教諭、調理師の意思統一に努めた。 	8
<p>○一校一葉プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校取り組む計画であったが、一部の学校で実施できなかった。 	8

事務事業名	④読書の普及		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>学校司書との連携により、邑南町おすすめの本リストを活用し子どもたちの読書の質をより高めることができた。また、調べ学習に適した資料の収集により学校図書館へのバックアップが充実してきている。</p> <p>図書館での各種行事や学校での読書普及活動に読書ボランティアの協力を得て開催することができた。</p>		9	改善し 継続
課 題			
<p>資料の見直しをおこない、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。</p> <p>読書ボランティアのネットワークづくりを推進する。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○読書の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書ボランティアの協力を得ながら、読み語り、ストーリーテリングなどの読書体験の普及を図った。 ・学校での調べ学習等のレファレンスに対応し、資料の収集を行った。 			9
<p>○読書ボランティアの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進のため、読書ボランティア研修会を1回実施し資質の向上及び連携・協力を図った。 ・町内には、読書ボランティアの方が約120名おられ、小学校や中学校で朝の読み語り等に関わってもらっている。また、図書館での行事等に参加、協力してもらっている。 			9

資料：教育委員会の点検・評価及び公表に係る自己評価の考え方

- 【総合評価】 主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。
- 【継続、廃止等】 「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。
- 【実績評価】 「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階評価することとする。

■実績評価の点数について

*業務（事務）目標がどの程度達成されたか

評価点	達成度合	数値化可能な場合の基準*1	数値化できない場合の総合判断の基準
10	目標どおり以上の成果を達成	達成水準どおり（100%以上）の成果を挙げた	期待どおり以上の成果を挙げた
9	ほぼ目標に近い成果を達成	達成水準に対して90%以上の成果を挙げた	ほぼ期待どおりの成果を挙げた
8	目標を未達成	達成水準に対して80%以上の成果を挙げた	今一歩、期待どおりの成果に至らなかった
7		70% "	期待どおりの成果には、至らなかった
6		60% "	
5		50% "	
4		40% "	
3		30% "	
2	目標を著しく未達成	達成水準に対して30%未満の場合	期待を大幅に下回る結果となった
1		達成水準に対して10%以下	

*1 数値化可能な場合の基準

①目標達成度：次の4つを勘案し、関連するものの数値の平均を求めらる。

ア（回数実施率） 実施数／目標数 イ（定員充足数） 実人数／目標数 ウ（予算執行率） 実施額／予算額

エ（費用対効果） 事業費／講座参加者数 ｖただし、主観的な判断となる。

②主要成果：アンケート結果の声から数値化 ①及び②で該当があれば、個々に点数化し平均点を事業内容ごとに点数化。①②のどちらにもない場合は総合判断とする。